

1 疾病および体調不良の子どもへの対応

乳幼児期は、まだ言葉で十分に話すことができず、自分の体調の状態を正確に伝えることができない。体調不良の症状としては、発熱、嘔吐、咳、食欲がない、元気がない、ぐずる、泣きやすい、ぐったりしているなどがある。保育にかかわる者が、子どもの表情、活気、機嫌、泣き声、便の様子、尿の回数、睡眠のリズム、発育状況など通常の状態をよく観察し、状態の変化を読み取り、症状に応じた食事の与え方が求められる（図6-1）。

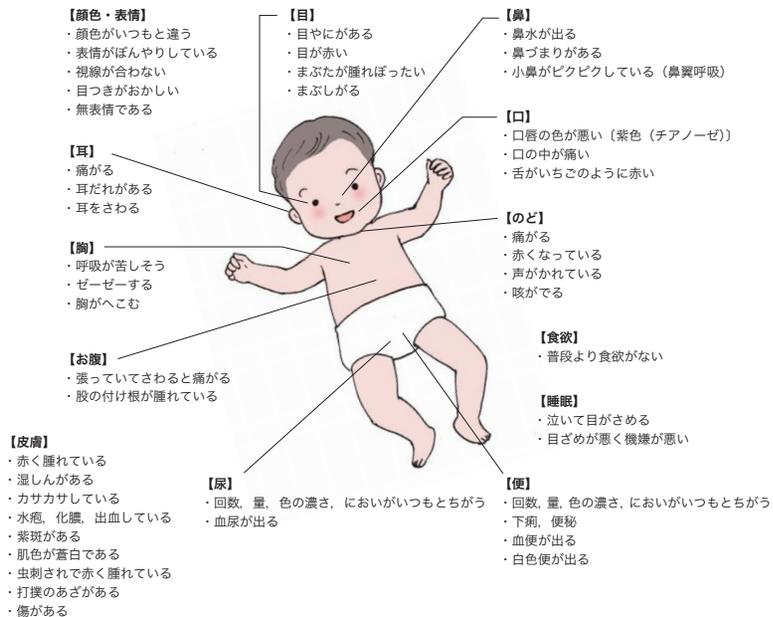
a 発熱・感染症・下痢・嘔吐・便秘などの症状と対応

(1) 発熱・感染症

発熱は、子どもに最もよくみられる症状である。ただし、子どもの体温は変動しやすいため、個々の平熱と比較し、食事の量、泣き方、気温（室温）なども含めて観察する。

発熱の原因としては感染症が最も多い。感染症は、体内に入った病原体が増殖し、その結果、人体に何らかの臨床症状が現れた状態をいう。病原体の感染力が強い場合、集団発生が起りやすい。

図6-1 子どもの症状を見るポイント



(厚生労働省：保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版／2023年5月一部改訂）、2023）

● 感染症を防ぐための対策

保育所などでは、抵抗力が弱く身体の機能が未熟であるという乳幼児の特性などをふまえ、感染症の流行を防ぐための正しい知識（感染源、感染経路、症状、合併症、予防法、治療など）や情報に基づき対応することが重要である。また、日常の手洗い、うがいなどの予防策、排泄物の処理などの衛生面の管理にも十分配慮する。

表6-1 おもな感染症

感染症	症状・特徴	感染経路
麻疹 (はしか)	初期の症状には、高熱、咳、鼻汁、結膜充血、目やにがでて、熱は一時的に下がり、そのころに口の中に白いぶつぶつ（コプリック斑）がみられる。一時下がった熱が再び上がり、発疹が出現する。その後、解熱し、発疹は色素沈着を残して消える。肺炎、中耳炎、熱性けいれん、脳炎などを合併することがあるので注意が必要である。	飛沫感染、接触感染、空気感染
インフルエンザ	突然に高熱が出て3～4日続き、倦怠感、食欲不振などの全身症状やのどの痛み、鼻汁、咳などの症状を伴う。通常、1週間程度で回復するが、肺炎、中耳炎、熱性けいれん、脳症などの合併症が起こる可能性がある。	飛沫感染（接触感染することもある）
新型コロナウイルス感染症	無症状のまま経過することもあるが、発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、嗅覚異常などの症状がみられる。鼻やのどからのウイルスの排出期間の長さ個人差があるが、発症2日前から発症後7～10日間はウイルスを排出しているといわれている。発症後3日間は、感染性のウイルスの平均的な排出量が非常に多く、5日間経過後は大きく減少する。	飛沫感染、エアロゾル感染、接触感染
風しん	発疹が顔や頸部に出現し、全身へと拡大する。発疹は紅斑で融合傾向は少なく、約3日間で消え、色素沈着も残さない。発熱やリンパ節腫脹を伴うことが多く、悪寒、倦怠感、眼球結膜充血等を伴うこともある。	飛沫感染（接触感染することもある）
水痘 (水ぼうそう)	発疹が顔や頸部に出現し、やがて全身へと拡大する。発疹は、斑点状の赤い丘疹から始まり、水泡（水ぶくれ）となり、最後は痂皮（かさぶた）となる。これら各段階の発疹が混在するのが特徴で、全ての発疹が痂皮（かさぶた）となれば感染性がないものと考えられる。	飛沫感染または空気感染
腸管出血性大腸菌感染症	おもな症状は水様性下痢、腹痛、血便である。溶血性尿毒症候群や脳症を合併することがある。予防のワクチンは開発はされていないため、食品や調理器具の十分な加熱と手洗いの徹底が必要である。	経口感染（汚染された生肉や加熱が不十分な肉など）、接触感染（感染した患者の糞便）
ウイルス性胃腸炎	ノロウイルスはとくに秋から冬にかけて流行し、ロタウイルスは冬から春にかけて流行する感染力の強い病気である。症状は、嘔吐と下痢（ロタウイルスでは白色便が特徴）、腹痛、発熱であり、ノロウイルスで1～3日、ロタウイルスで2～7日で治癒する。症状がなくなっても10日程度は糞便中にウイルスが排泄されるので、流行時は注意が必要である。一般的な消毒では十分ではなく、次亜塩素酸ナトリウムによる消毒を行う。食品は85～90℃で90秒以上で加熱が必要である。	経口感染、接触感染、飛沫感染 飲食物や感染者の嘔吐物・糞便を介して感染する
RSウイルス感染症	発熱、鼻汁、咳などを伴い、軽度の風邪症状から重症の肺炎までであるが、乳幼児、早産児、先天性心疾患などがある場合には、重症化しやすい。2歳以上で再感染した場合には、症状としては軽い咳や鼻汁程度しかみられず、これらの人が感染源となることもある。	飛沫感染、接触感染

(厚生労働省：保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版／2023年5月一部改訂）、2023）